

2013年度 神戸大学山岳部 六甲縦走 報告書

文責：山本

参加メンバー：CL 山本 (2) SL 吉澤 (2) 立川 (4) 山内 (2) 阿部 (3) 伊部 (1) 遠藤 (1) 高橋 (1) 田畑 (1) 松浦 (1)

5/12

8:00にJR須磨駅に集合。遠藤が10分遅れで到着したため少し遅れて出発した。須磨浦公園駅までウォーミングアップとしてしばらく歩く。押しボタン式信号に気付かずに30秒間無駄に信号待ちをする。途中でトイレがあったので全員に用を済ませてもらう。須磨浦公園駅から鉢伏山までは全員元気があり、笑顔を見せる。段々と笑顔が消えて行くだろうと想像するに楽しかった。

鉢伏山に着くころには皆汗をかき始めたので、上着を脱ぎ、ズボンを捲る者もいた。おらが茶屋にて再びトイレ休憩をとる。裏六甲が見えて展望が良い。ここから一度市街地に下りるのだがその途中で棒を振り回すおじさんに出会う。危ない人だと思っていたが、尺取虫が出す糸を取り払うためだったのだと、後に気づく。また、後にこの尺取虫に苦しめられることになる。

市街地を通り過ぎると梶尾山まで約400段の階段を登る。あえて遅めのペースで登らなかったのは各人の体力を見るためである。阿部・高橋が辛そうに見えた。その後須磨アルプスを過ぎるまでを順調に進む。尺取虫との戦いはもう始まっていた。

東山から市街地に下り、迷うかどうか心配だったが案外標識が豊富に存在したので安心した。一箇所だけ標識がなくダウンロードした地図通りに行くと迷ってしまい、住民が間違いを教えてくれた。エリアでは正しく表示されていた。

高取山を6-7割程登ったあたりで高橋の息が荒くなってきた、かなりしんどそうだったので休憩を取る。頂上まで後10-20分だと勘を言って励ました。そして尺取虫が本気を出す。荒熊神社―高取神社の間で、頭上に大量の尺取虫が出現した。山本が下を突っ切ろうとするとボロボロ落ちてきたので慌てて引き返す。枝を投げたりしてある程度間引いてから慎重に通過した。

鶴越駅に着くと、エリアのコースタイムより30分遅れていた。エリアのコースタイム*0.7-0.8くらいのペースで計画していたのでこの時点で摩耶山まで行くのは不可能と判断した。また、阿部・高橋がここで下山したいと言っていたが、SLと協議の結果、菊水山まで登って鈴蘭台駅に下りてもらうことにした。疲れてはいるが体力的には菊水山を登るくらいは大丈夫であると考えたのと、ここで諦めるような精神力では今後さらに辛い思いをするだろうと考えたからである。

「苦しみに耐えるのもあなたの人生ですぞ。」菊水山の登り、高橋・阿部は相変わらず辛そうだ。2人にはゆっくりした一定のペースで登ってもらいたかったのですが、二人を吉澤・山内で挟み先発組とは違うペースで登ってもらったことにした。先発組にはより苦しんでもらうためにペースを速める。途中ですれ違ったおじさんにあと少しだと言われたので頂上までペースを最大にして登った。田畑は最後まで山本の後ろに着いて来ていて体力がある。というか山本よりある。怪我したら背負ってもらおう。そして、立川・遠藤・松浦・伊部の順に頂上に到着した。松浦は流石の体力であった。立川は煙草をやめるそう。頂上での休憩の後、阿部・高橋を下すのはSLかそれとも他の上回生かを議論したが、二人は大龍寺までがんばるとのことですれ違ったおじさんに出会った。おじさんには少し遅れで到着した。遠藤は流石の体力であった。立川は煙草をやめるそう。頂上での休憩の後、阿部・高橋を下すのはSLかそれとも他の上回生かを議論したが、二人は大龍寺までがんばるとのことですれ違ったおじさんに出会った。おじさんには少し遅れで到着した。遠藤は流石の体力であった。立川は煙草をやめるそう。頂上での休憩の後、阿部・高橋を下すのはSLかそれとも他の上回生かを議論したが、二人は大龍寺までがんばるとのことですれ違ったおじさんに出会った。

鍋蓋山の山頂付近はなだらかで頂上がわからず、山頂の約200m手前を山頂と勘違いした。このあたりで木が鉄塔に見える幻覚が山本・田畑に現れた。その後順調に大龍寺に到着。阿部・高橋は本当によく頑張った。ここで全員バスを使って下山しようと思っていたのだが他のメンバーのやる気が意外にあったので、山内・阿部・高橋・遠藤をバスで下山させた後、再び摩耶山まで目指すことにした。残りのメンバーの体力ならば日没までに摩耶山を通過し六甲の住宅街まで下れると判断したのだが、後にこれは間違った判断となる。

大龍寺から市ガ原までだらだらとした下りの舗装道が続き、コースタイム 25 分を 5 分で下った。市ガ原にて最後のトイレ休憩をとりいざ登りに入りペースを上げるが伊部が遅れ始める。しばらく登り、伊部のペースが劇的に遅くなったので付いていた立川・吉澤に話を聞くと、本当にヤバいとのこと。摩耶山は完全に諦めエスケープに絞る。布引ハーブ園からのロープウェーがあると思っていたが 5 時 15 分の終電を逃してしまった。よって学校林道から新神戸に下りること決めた。

学校林道に合流するまでも登りが続き、伊部は相当辛そうにして、たまに立ち止まって休憩を取らなければならなかったほどだ。途中声が出てきて吹っ切れていた。学校林道合流地点まで頑張って登り、あとは下るだけだと皆で励ますがなかなか元気がでない。野郎の応援では効果がないようで、松浦さんに「がんばって」と言ってもらったところニヤニヤしていた。正直なやつだ。

学校林道—旧摩耶道を下り新神戸に到着した。立川さんが歩いて三ノ宮まで行くという謎のガッツを見せるので、伊部・田畑は地下鉄で帰り、山本・吉澤・立川・松浦は歩いて三ノ宮まで歩くことになった。松浦の体力はいまだに謎。伊部は一皮むけた。

反省点

- ・休憩が多く、また長かった。
- ・市街地でペースをもう少し上げることができた。
- ・数人がエスケープするときだれが付き添うべきか。
- ・伊部が良い例だが、メンバーの体調を把握しきれていなかった。
- ・エスケープの交通機関の最終時間を把握しておくのを忘れていた。大失態。